

ナタネ栽培におけるヒヨドリ及び ニホンザル被害の実態調査（浪江町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 鳥獣被害の実態把握及び対策改善提案（浪江町）

担当者 吉田 雅貴

I 新技術の解説

1 要旨

浪江町ではソバ・ナタネの輪作体系に取り組んでいるが、加害鳥獣が明らかでなく適切な被害対策が実施できない問題があった。そこで、ナタネ栽培におけるニホンザル及びヒヨドリの被害実態を明らかにした。なお、ニホンザルによる主茎の被害が抽だい直後のみであれば、側枝を収穫可能であった。

- (1) ニホンザルは抽だい初期の主茎及び葉を、ヒヨドリは越冬後初期の葉を食害した(図1、2)。なお、両被害とも森林近接部で多く見られた。
- (2) 令和4年4月4日に複合柵を設置後、ニホンザルの侵入はなく被害防止に有効だった。4月の個体は複合柵設置前の3日間、5月の個体は周辺(調査ほ場外)で撮影されたものである(図2)。
- (3) ニホンザルの被害株は、その後に追加被害がなければ側枝が伸長することで収穫でき、その収量はサル害なし区と同等であった(図3、表1)。
- (4) ヒヨドリの被害株は、その後の生育が遅れ、収量が大きく減少した(図3、表1)。

2 期待される効果

- (1) ナタネ栽培における鳥獣被害対策の基本情報となる。

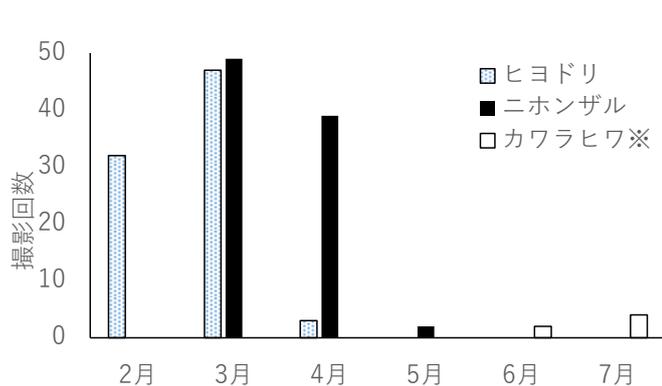
3 活用上の留意点

- (1) 他の鳥獣種が生息する地域にあっては、対策を別途検討する必要がある。当該地域にはイノシシが生息しており、ワイヤーメッシュ柵及び電気柵を設置している。
- (2) 調査ほ場においては、ニホンザル被害後の令和4年4月4日にはほ場外周のワイヤーメッシュ柵を複合柵に改修している。防鳥ネットはほ場内の調査区のみを設置した。
- (3) 複合柵及び防鳥ネットの費用対効果については試算していない。
- (4) 今回の調査では摂食を確認していないが、収穫期にカワラヒワによる子実食害が懸念される。

II 具体的データ等



図1 ヒヨドリ(左)及びニホンザル(右)の加害の様子と被害株



※小型のため摂食の瞬間を確認することができなかったが、ナタネを加害する

図2 加害鳥獣種の撮影回数
(撮影期間 2022/2/16~2022/7/3)

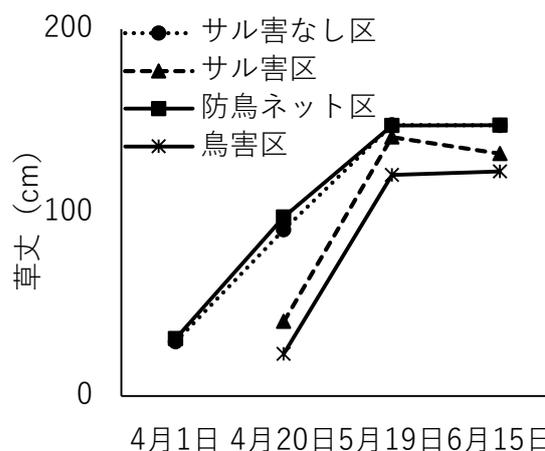


図3 ナタネ生育期間中の草丈

表1 ナタネの子実収量と千粒重

	子実収量 (kg/10a)	千粒重 (g)
サル害なし区	128.8 ± 24.5 a	3.2 ± 0.1 n.s.
サル害区	91.7 ± 19.5 ab	2.9 ± 0.2 n.s.
防鳥ネット区	125.7 ± 12.4 a	3.2 ± 0.1 n.s.
鳥害区	47.1 ± 10.2 b	2.9 ± 0.1 n.s.

数値は平均値 ± 標準偏差。

Tukey法により異なる文字間で5%水準で統計的に有意差あり。

III その他

- 1 執筆者 吉田 雅貴
- 2 実施期間 令和4年度
- 3 主な参考文献・資料 なし